



しらさぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO.13
(通巻196号)
令和元年(2019)
9月13日(金)

『性教育Q & A』

校長 飯野 博史

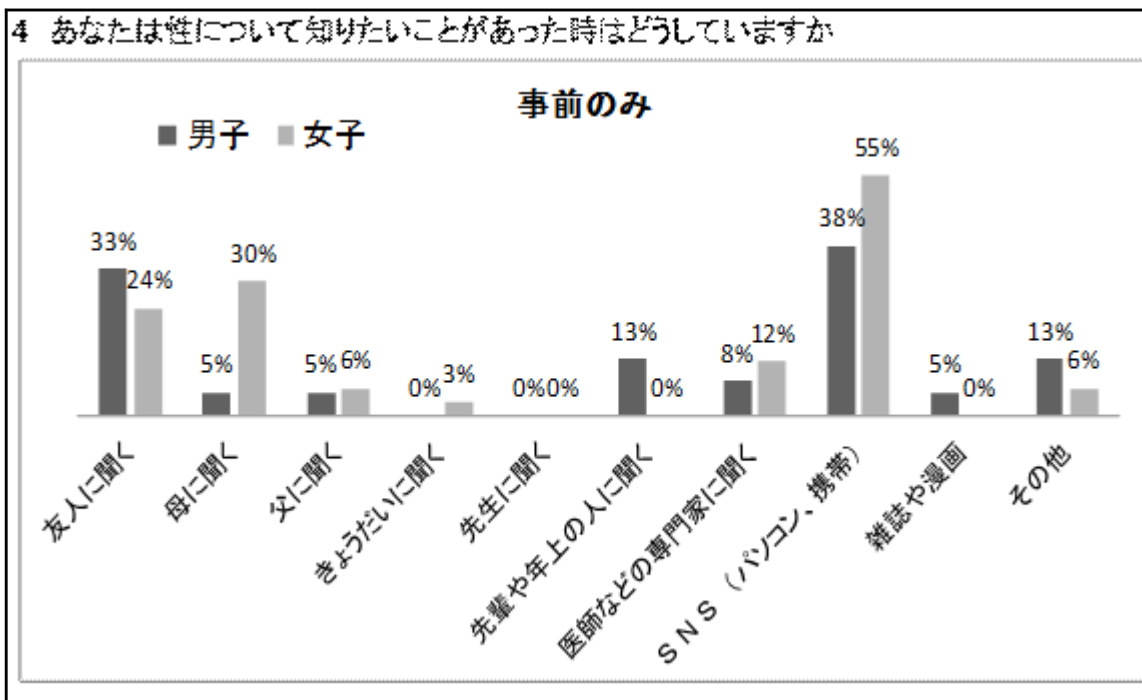
9日(月)、台風15号が首都圏を直撃しました。すさまじい暴風雨に不安な一夜を明かした方も多かったのではないのでしょうか。台風等の対応について予め周知していたせいか、登校時に大きな混乱はありませんでした。しかし、鉄道の計画運休によりJR線、私鉄線ともに運休となり、教職員が始業時間に間に合わないという事態となりました。生徒たちは落ち着いて1校時自習しました。今後の課題となるところです。

さて、八中では昨年度に引き続き「性教育」に力を入れていきます。「性教育」についてQ & A形式にまとめてみました。『性教育の手引き(東京都教育委員会)』を参考にしました

Q1 なぜ「性教育」に力を入れるのですか？

A 近年、社会環境の変化や情報化社会の進展により、児童・生徒を取り巻く環境が大きく変化しています。インターネット上には性に関する情報が氾濫し、様々な情報を容易に入手できるとともに、SNS等を介して性犯罪に巻き込まれることもあります。また、若年層のエイズ及び性感染症や人工妊娠中絶も課題となっています。性に関心をもつ中学生に、正しい知識や考え方を身に付けさせることが重要と考えています。

下のグラフをご覧ください。昨年度八中2年生が性の授業を受ける前に行ったアンケートを集約したものです。性について知りたいことがあったとき、男女ともにSNSを利用していることがわかります。SNSにはもちろん正しい情報もあるのですが、興味本位の無責任な性情報に触れている可能性も大きいと思います。



自分の性について正しく理解することは自己肯定感につながります。相手の性について

理解することは相手を尊重する態度につながります。性について学習することは八中で推進する「人権教育」にも大きく関わっているのです。

Q 2 昨年度実施して、成果と課題はなんですか？

A 昨年度は性教育の中心となる保健体育（保健分野）の授業をまず充実させました。指導案を校長もチェックし、授業を見に行きました。スライドなどを用いて、性が身近な問題であることを学習しました。どの生徒も性について関心があるようでしたが、発達段階に差があり、理解に差があることも確認できました。

性教育を進める上で保護者の方の理解も必要と考え、PTA家庭教育講座で性教育を取り上げました。性教育の第一人者 村瀬幸治先生を講師にお迎えし、保護者の方と教職員が一緒にお話を伺いました。「性の話は家庭ではしづらい。学校で積極的に取り上げてほしい」という意見がたくさんありました。

道徳授業地区公開講座では各学級で男女の望ましい交際などを題材とし、〔相互理解、寛容〕〔友情、信頼〕について考えました。

特別授業として第1学年で「いのちの授業」、第2学年で「性と人権の授業」、第3学年で「性の多様性の授業」を行いました。それぞれの学年の発達段階に応じて性について学べたことが大きな成果だと思います。

課題としては、生徒の「性に関する悩み」を教員が受け止める雰囲気をつくることと考えます。もう一度、表のグラフを見ていただくと「先生に聞く」と回答した生徒が男女ともゼロでした。「先生に聞くのは恥ずかしい」という思いもあるのでしょうか、少し寂しい気がしました。一部の教員だけでなく全ての教員が、生徒が気軽に性について相談ができるような力量を身に付けるとともに、話しやすい雰囲気をつくっていきたいと思います。

Q 3 性教育では、具体的にどんな内容を指導するのですか？

A 性教育の内容は、保健体育科はもとより、理科、家庭科、道徳科等の各教科、総合的な学習の時間及び特別活動に関連する内容が多くあります。それらを相互に関連付けながら学校の教育活動全体を通じて行うことが必要とされています。

生命尊重	・ 人間は、他の生物と違って、単に生命を維持し種族を残すというだけでなく人間としてどう生きるかという生命の尊さが問われること。 ・ 人間は、生まれながらに多様であり、全ての人間が人間として尊重されなければならないこと。 ・ 新しい生命が誕生することは、かけがえのない喜びであること。 など
生物的側面	・ 男女には、身体的、生理的な差異があること。 ・ 生殖に関わる仕組みと機能に関して正しく理解すること。 ・ 思春期になると、妊娠・出産が可能となるような成熟が始まること。 ・ 受精、妊娠、出産とそれに伴う健康面の課題を理解すること。 ・ 性と健康に関して、性感染症の予防などに留意すること。
心理的側面	・ 自己の性を肯定的に受容できるようにすること。 ・ 身体的、精神的な発達や変化によって、不安や悩みが生じること。 ・ 性ホルモンの分泌が活発になる思春期には、身体の内部環境が変化するため、情緒が不安定になること。 ・ 異性に対する関心が高まり、性衝動が発現すること。 ・ 性に関する心理的発達やそれによる不安や悩みについて理解し、個人的適応を図る必要があること。 など
社会的側面	・ 人間は様々な欲求や主張をもっており、互いに相手を認め合い尊重し合うためには、自分の欲求や主張を他人との関わりにおいて調整しなければならないこと。 ・ 人間関係のマナーやエチケットとして、時と場、年齢に応じて、相手や周囲の人に不安感や不快感を与えない行動が必要であること。 ・ 異性との交際に関しては、適切な意思決定や行動選択の能力が必要であること。 など